

今日から使える次期学習指導要領

PROFILE

永田 潤一郎 ながた じゅんいちろう (文教大学教育学部教授)

1962年東京都出身。千葉大学大学院教育学研究科数学教育専攻修了後、千葉県内の公立高校・国立中学校に17年間勤務。その後、文部科学省初等中等教育局教育課程課で教科調査官として学習指導要領の改訂や評価規準の作成等を担当すると共に、国立教育政策研究所で教育課程調査官・学力調査官として研究指定校の指導や全国学力・学習状況調査の問題作成及び分析等に取り組んだ。千葉県教育庁指導課教育課程室に勤務した後、2012年から文教大学教育学部で教員養成に携わりながら、全国各地で行われる研究会や研修会に積極的に参加して、学校現場の先生方と学び合う機会を大切にしている。



① 次期学習指導要領に向けて

次期学習指導要領が、2017年3月31日に公示されました。ご存じの通り、学習指導要領は、これまでおよそ10年ごとに改訂されてきました。次期中学校学習指導要領は、4年後の2021年度から全面実施される予定です。東京オリンピック・パラリンピックの翌年から、2030年頃の社会の在り方を見据えながら、学校教育を通して、その先の未来をよりよく生きていくために子どもたちに求められる「生きる力」を育むことを目指しています。社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となるであろう世界で、子どもたちが変化を前向きに受け止め、自らの人生を豊かなものにしていくために、今何を教える必要があるのか…私たちがしっかりと考える必要があります。

② 新しい指導内容への対応

そのために、次期学習指導要領の全面実施に向けた取り組みは、中学校数学科の現場でも既に始まっています。例えば、統計や確率についての内容で構成される「資料の活用」の領域については、「データの活用」と名

称が改められるだけでなく、新たな指導内容が加えられます。そのひとつが第2学年で指導することになる「箱ひげ図」で、次期学習指導要領には、「四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断すること」が示されています。国立大学法人の附属中学校など、先進的な実践研究に取り組む中学校では、この箱ひげ図をどのように指導するべきかをテーマにした授業研究会や研究発表会が既に数多く企画・開催され、「箱ひげ図ブーム」の様相を呈しています。こうした進取の気性は、今後の中学校数学科の指導の方向性を占う上で重要ですから、是非その提案の内容や実践としての有効性に注目したいものです。

③ 新旧学習指導要領比較

こうした話をすると、「いやいや、まだ4年も先のことでしょう。今の学習指導要領の内容を指導するので手一杯の状況なんだから、次の学習指導要領を読むのはまだ先でいいよ」という声が聞こえてきそうです。次期学習指導要領は来年度から移行期間に入りますが、全面実施を考えると、確かにそうした印象を持つ方も少なくない

かもしれません。しかし、現行学習指導要領のもとで行っている現在の授業改善にも活かせる視点が、次期学習指導要領に含まれているとしたらどうでしょう。

今回の学習指導要領の改訂では、現行の学習指導要領から内容を減らさないことが前提とされました。だとすると、現在教えている内容は、次の学習指導要領にも必ず含まれているはずですね。どのように書かれているのか気になりませんか。全く変更なしなのか、はたまた新たな指導が求められているのか…もし、新たな指導が求められているとしたら、内容としては現在も同じものを指導しているのですから、今の授業に取り入れができるのではないかでしょうか。ここでは例として、第2学年の連立二元一次方程式の指導内容を、新旧の学習指導要領からそれぞれ抜き出し、下の表にまとめてみました。既にご存じだと思いますが、次期学習指導要領では、これまでとは項目の立て方を変え、単元レベルで「ア 次のような知識及び技能を身に付けること」と「イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること」を分けて示しています。内容もそれに合わせて大きく変わっているのかな…と思い、新旧の学習指導要領で内容として変更のない部分にアンダーラインをつけてみたのですが、ほとんど同じ内容であることがわかりました。新たに加えられたのは、「一元一次方程式と関連付けて、連立二元一次方程式を解く方法

を考察し表現すること」で、子どもが思考力、判断力、表現力等として身に付けられるようにすることが求められています。これは、「連立方程式の解き方には、代入法と加減法という解き方がある、次のようにするんだよ…」というような知識や技能を教師が一方的に伝授する指導の見直しを意図したものです。それと共に、1つの文字を消去することで、既習の内容である一元一次方程式の解法に帰着するという考え方を活かし、連立二元一次方程式の解法を考察して表現することが求められています。また、一元一次方程式の解法に帰着するという共通の考え方を使われていることから、子どもが代入法と加減法を統合的に捉えることができるようになる指導も考えられます。

④ 今の授業でも活かせる視点

ここまで読んで、「そんな指導なら、もうやってるよ」という方が多いことを期待しているのですが、どうでしょうか。つまり、これは現行学習指導要領でも十分指導できることなのです。次期学習指導要領には、こうした現在の授業から使える指導改善の視点が他にも含まれています。他の領域や学年の内容にも目を通して、今の自分の指導の改善に役立つ視点を探してみましょう。「今日から使える次期学習指導要領」をこのまま眠らせておくのは、もったいないですよ。

| 次期学習指導要領 | 現行学習指導要領 |
|---|---|
| <p>(2)連立二元一次方程式について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア)二元一次方程式とその解の意味を理解すること。</p> <p>(イ)連立二元一次方程式の必要性と意味及びその解の意味を理解すること。</p> <p>(ウ)簡単な連立二元一次方程式を解くこと。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア)一元一次方程式と関連付けて、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現すること。</p> <p>(イ)連立二元一次方程式を具体的な場面で活用すること。</p> | <p>(2)連立二元一次方程式について理解し、それを用いて考察することができるようとする。</p> <p>ア 二元一次方程式とその解の意味を理解すること。</p> <p>イ 連立二元一次方程式の必要性と意味及びその解の意味を理解すること。</p> <p>ウ 簡単な連立二元一次方程式を解くこと及びそれを具体的な場面で活用すること。</p> |